

〔利尻富士町〕利尻富士町立鴛泊中学校区の取組（小中一貫型小学校・中学校）

概要

- ・目指す子ども像「ふるさとを愛し、未来を切り拓く自立した子ども」
- ・利尻富士町立鴛泊小学校（57人）、利尻富士町立鴛泊中学校（34人）
- ・導入時期：令和5年4月導入
- ・設置形態：施設隣接型
- ・学年段階の区切り：6－3



教育委員会の支援

- ・教育長や教育委員会職員が、小中一貫教育に関する会議や合同研修、小中交流全体会に参加し、協働して取組を推進
- ・教育委員会次長が、コーディネーター的な役割として、小・中学校間の連絡調整等を実施

取組の工夫の実際

① コアチームを中心とした教育課程の編成

- ・コアチーム（小・中学校の管理職と分掌部長で組織）が、小・中学校9年間の「学びをつなぐ」ことに向けて、発達の段階や連続性を踏まえた各学年の教科の目標設定を検討した。
- ・コアチームでの検討をもとに、小中交流会（教科部会）において、学習内容の系統性や重点化を図った小・中学校9年間の指導計画を改善した。

	時数	6年(175時間+6)	時数	7年(140時間)	時数
Ⅱ期					
4月	2	【読聞】自分の対話 -自分のことを詳細に見えて話す。	2	【読む】朝のルー 【読む】野原はうたう	1
	1	【読む】風景 純銀もざいく -緑の森の緑や空の青を眺めて自然の美しさ、言葉の響きを感じる。	1	【読聞】声を届ける	2
	8	【読む】あの坂をのぼれば -春の足音に着目して登場人物の心の変化を想像し、物語の読み手になる。	3	【書く】書き留める/言葉を調べる	2
	2	【書く】考えを図や表に -目的や見解に応じて、考えや意見を図に書き出して、関係づけがしやすくなる。	3	文協テスト	1
5月		全国学力・学習状況調査 【書写】	1	【書写】	1
	4	【文化】春はあけぼの	4	【読む】シンジュン	4

【鴛泊小中一貫カリキュラム国語（一部）】

【成果】

- ・コアチームによる検討・整理を実施したことにより、児童生徒の課題がより明確になった。
- ・小中交流会で指導計画を改善したことにより、全教職員の小中一貫教育への意識の向上が図られた。

【今後の取組】

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、教育課程の検証改善を図る必要がある。
- ・小中相互の乗り入れ指導の効果的な実施に向けて、指導法の充実を図る必要がある。

② 学校運営協議会等を含めた検証改善

- ・学校と「人・地域をつなぐ」ために、学校運営協議会で地域の想いや願いを把握するとともに、小中一貫教育の推進上の課題を共有し、小中一貫教育の取組の検証改善を図った。
- ・学校運営協議会で鴛泊小中合同運動会について検証する場を設け、次年度に向けて学校・地域・保護者で意見や改善点を共有した。



【鴛泊地区学校運営協議会の様子】

【成果】

- ・学校運営協議会で小中一貫教育の取組の検証改善を進めていくことにより、「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ転換され、学校・地域・保護者が連携・協働しながら教育を進める関係性を強化することができた。

【今後の取組】

- ・小中一貫教育の充実に向けて、地域人材や教育資源を生かした教育活動を推進していくとともに、地域との連携をより一層深める必要がある。

〔利尻富士町〕利尻富士町立鬼脇中学校区の取組（小中一貫型小学校・中学校）

概要

- ・目指す子ども像「確かな学力を身に付け、自ら解決できる子 心豊かに、思いやりの心で互いに認め合う子 心身を鍛え、困難に打ち克つ粘り強い子」
- ・利尻富士町立利尻小学校（27人）、利尻富士町立鬼脇中学校（18人）
- ・導入時期：令和4年4月導入
- ・設置形態：施設一体型
- ・学年段階の区切り：6－3



教育委員会の支援

- ・学習での体験場所や講師、バスの手配など、人的・物的資源の確保に向けた支援を実施
- ・学校と地域が子どものためにできることに関する協議を行うなど、小中一貫教育の充実にに向けた取組を推進

取組の工夫の実際

① 教科部会を中心とした教育課程の編成

- ・島内の研究サークルの教科部会が中心となり、小中高12年間の連携を意識して作成した指導計画に基づき、社会科、体育科（保健体育科）、生活科、総合的な学習の時間における系統的な教育課程を編成した。
- ・離島という地域性を踏まえ、町教育委員会の社会教育係と連携して、地域の人的・物的資源を活用した。



【島内の研究サークルの様子】

【成果】

- ・島内の研究サークルの取組を通して、教育課程の編成を円滑に進めることができた。
- ・町教育委員会の協力により、講師の手配や体験活動の場の設定など、学校に必要な人的・物的資源を確保することができた。

【今後の取組】

- ・児童生徒のよりよい学びに向け、島内の研究サークルの協力を得ながら教育課程の検証を進める必要がある。
- ・新たな人的・物的資源の確保に向け、町教育委員会との連携を充実させる必要がある。

② 教科担任制や外国語科における乗り入れ指導

- ・施設一体型校舎の利点を生かし、教科の専門性を有する中学校教諭による小学校への乗り入れ指導を実施した。

<実施教科>

高学年：外国語、体育科、音楽科、算数科

中学年：外国語活動、音楽科

低学年：音楽科



【中学校教諭による乗り入れ指導の様子】

【成果】

- ・中学校教諭による小学校への乗り入れ指導により、専門性の高い授業が展開され、日常の授業における発言や質問が増えるなど、児童の学習に対する興味・関心を高めることができた。
- ・乗り入れ指導を実施した教科において、小・中学校の系統性を踏まえた授業改善を進めることができた。

【今後の取組】

- ・乗り入れ指導を充実させるため、小・中学校の教員が児童生徒の実態を共有し、細かな見取りと発達の段階に応じた指導法を確立していくとともに、小中合同研修会等を活用するなど、乗り入れ指導の様子の交流を通して、授業改善の推進に取り組んでいく必要がある。

〔安平町〕安平町立早来学園の取組（義務教育学校）

概要	教育委員会の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像「ふるさとを大切にし 自ら世界を広げる子 友達と夢を語り 未来に向かって挑戦する子 思いやりをもち 互いの良さを認め合う子」 ・前期課程（197人）、後期課程（116人） ・設置時期：令和5年4月設置 ・設置形態：施設一体型 ・学年段階の区切り：4－3－2 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の小・中学校が「小中一貫教育」の視点で授業改善を図ることができるよう、「安平町ハンドブック」を作成 ・「学校魅力化コーディネーター」を配置し、地域人材や教育資源を活用した「総合的な学習の時間」の授業を支援 ・地域住民の声を積極的に生かした「地域とともにある学校」「地域の核となる場所」を実現するための「学校運営協議会」を開催

取組の工夫の実際

① 指導内容系統一覧表や「安平町ハンドブック」の活用及び改善

- ・指導内容系統一覧表を作成し、地域の特色を生かした地域学習を計画的に行うなど、9年間を通じた「ふるさと教育」の充実を図った。
- ・全教員が「安平町ハンドブック」にあるピクトグラムを活用し、目指す子どもの姿の実現に向けた授業改善の視点を共有しながら、校内研究を実施した。



【ピクトグラム（一例）】

【成果】

- ・9年間を通して「ふるさとを大切にし、自ら世界を広げる子」を育成するための取組を組織的に実施することができた。
- ・「安平町ハンドブック」を活用することにより、全教職員が同じ視点をもって授業改善を進めることができた。

【今後の取組】

- ・「ふるさと教育」の充実に向け、目指す子ども像の実現に向けて活動を精査し、児童生徒の学びのつながりや発達の段階をより考慮した指導内容系統一覧表の改善を図る必要がある。

② 校内研修の充実による授業改善

- ・個人で設定した研究テーマを踏まえたグループワークによる研究や、自主的なミニ研修、個人研究の記録の蓄積などにより、教員自身の資質・能力の実態及び伸長の把握を行った。
- ・「はやきたスタディフェスティバル（公開研究会）」を開催し、小中一貫教育の研究成果を広く発信した。



【はやきたスタディフェスティバルの様子】

【成果】

- ・ホワイトボード、可動式机、多様なワークスペース等や、ICT環境を活用した多様な交流方法を設定することにより、表現力や、批判的思考力の育成に向けた授業実践を行うことができた。

【今後の取組】

- ・児童生徒に育成を目指す資質・能力を効果的に身に付けさせることができるようICT環境を更に生かす必要がある。
- ・引き続き成果発表の場として公開研究会を実施し、成果を広く普及するとともに、小中一貫教育の充実に向けた取組を検証改善する必要がある。

〔湧別町〕 湧別町立ゆうべつ学園の取組（義務教育学校）

概要	教育委員会の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す子ども像「一人一人が問いをもち続け、互いに学び合い、学びを自覚する姿」 ・ 前期課程（84人）、後期課程（38人） ・ 設置時期：令和6年4月設置 ・ 設置形態：施設一体型 ・ 学年段階の区切り：4-3-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町教育委員会が主体となって学校・家庭・地域の人材からなる推進委員会を設置 ・ 学校運営協議会と連携して地域へ小中一貫教育に関する情報を発信 ・ 町内の全教職員を対象に、外部講師を招聘した授業改善に係るセミナーを開催 ・ 「ゆうべつ学」のための郷土に関する資料を作成し、町内全ての児童生徒に配付

取組の工夫の実際

① 「ゆうべつ学」を通じた探究的な学習

- ・ 目指す子ども像の実現ために、「ゆうべつ学」で身に付けさせたい力を明確にするるとともに、それを活用できる地域資源を位置付けた指導計画を作成した。
- ・ 町主催のセミナーにおいて、全教職員で「ゆうべつ学」の指導計画を共有し、持続可能な視点から改善点を話し合った。



【「ゆうべつ学」で身に付けさせたい力】

【成果】

- ・ 児童アンケート「自分から学習に取り組んでいるか」の質問に対し、肯定的に回答する児童生徒の割合が増加した。
(R5：76%→R6：88%)

【今後の取組】

- ・ 各学年で身に付けさせたい力をより効果的に育成できるよう、各種調査や児童アンケート等のエビデンスに基づき、指導内容の改善を図る必要がある。

② 全教科における単元配列表の改善

- ・ 全教科において、教科等横断的な視点による9年間の学びのつながりを明確にした単元配列表を作成し、児童生徒の理解度に応じた課題の設定や仲間と協働的に学ぶ場面の設定などを行った。

教科等	4月	5月	6月	7月	8月	
行事	入学式 始業式		運動会		夏休み	
国語	領土のちがいに着目して読み、印象に残ったことを伝えあおう	インタビューを通して、自分の考えを伝えながら聞く	主語と事例の関係をとらえ、自分の感想を伝え	表現の工夫して短歌を作り読みあひあう	情報をもとえて描き写す文章を書く	本は友達
算数	不思議なパスカルの文字を使った	2つの割合のかけ算・わり	3 対称な図形	4 分数のかけ	5 分数のわり算	6 データの
社会	1 ともに生きる暮らしと政治	2 わたしたちの暮らしを支える政治	3 日本の歴史	4 大団に学んだ	5 対立の政治が始まる	6 進歩文化
理科	1 物の見え方と空気	2 動物のからだのたら	3 植物のからだのたら	4 生き物のくらしと健康	5 月の形と太陽	6 月の形と太陽
総合的な学習の時間	課題の設定 湧別町はどのように開拓された？ 開拓時代の湧別について		情報の収集・開拓時代の衣食住		整理・分析	まとめ・表

【第6学年の単元配列表（一部）】

【成果】

- ・ 教職員アンケート「授業改善は進んでいるか」の質問に対し、「進んでいる」と回答する教職員の割合が増加した。
(R5：80%→R6：95%)

【今後の取組】

- ・ 地域住民や保護者と成果や課題を共有し、共通して取組を進めるため、単元配列表や、それに基づく目標の達成状況について情報発信する必要がある。